



URL <http://e-jousenji.com/>

浄泉寺寺報

発行日 平成31年1月20日
 発行者 浄泉寺住職 赤羽根 證信
 住 所 大崎市岩出山字浦小路113
 電 話 0229-72-1168

思いをあらたに……

浄泉寺 住職 赤羽根 證 信

あけましておめでとうございます。

先人の言葉に「年年歳歳花あいになり、
 歳歳年年人同じからず」と……。

明治、大正、昭和、現人神天皇として帝国主義なる侵略の末昭和20年敗戦後激動の昭和34年、初めて民間から皇后になる美智子さまを迎え、昭和64年1月、昭和天皇崩御ののち平成の天皇として時代を引き継ぎ、過去の時代の懺悔の旅と天災人災の続く災害地へ美智子さまとお二人でのお見舞い。ひざまずき手を取って励まされるその姿。平成30年12月23日、今上天皇として最後の誕生日メッセージは、象徴天皇の存在ではなく人間天皇として、時には声を震わせ話す姿に感動を覚えたのは私一人ではなかったと思います。その願いこそ、安穏なる平和でありましょう。

奇しくも昭和34年10月、浄泉寺住職を拝命して60年、ただ馬齢を重ねたのみを感じます。幸いなことに時代の変化とご門徒の皆様方のご協力があって今日の浄泉寺と私共の姿があると存じております。時折この現実が夢ではないかとさえ感じる瞬間もあり、誠にもって果報者と思います。

さて、新しい年号とともに新人類とでも言うべき人々が作って行こうとする平和への道標と歩みはどんなものなのでしょう、期待して行きたいと思います。そんな新しい時代の息吹を感じながら、今しばらく皆様とともに聞法のときを精進して行きたいと考えます。何卒よろしくお願い申し上げます。

年賀状に寄せて

毎年年末になると恒例の年賀状の季節となる。

去年の賀状に「無事」という字をしたためた。そして2018年末に新年の年賀はがきが手元に届いた時、心によぎった言葉が「往生」だった。

75歳を過ぎて、年々「喪中につき年末年始のあいさつを失礼する」旨の連絡が多くなり、最近では高齢の為年賀状を打ち切るとの話である。孤独の人になってしまうことの悲しみは生きて行く目標さえ失うことになるのだろうか…。

「往生」はもう一人の私に出遇う心の旅の目標となる言葉だとの思いを強くして、今年も年賀状を届けようと思う。

南無阿弥陀佛

「平成最後の……」それがどうした!?

浄泉寺 副住職 赤羽根

聡

今上天皇の退位が報じられるようになった2017年8月から、俄にこのフレーズが使われるようになった。インターネットをはじめとするメディアの発達がめざましい一方で、過剰に反応している感が否めない。今まで30年間、そんな意識もなかったのに、この時分になってやたらと騒ぎ立てる。日本人特有の熱しやすく冷めやすい気質を助長しているようだ。

昨年9月に、福島県富岡町に出かける機会があった。新しく整備された東北道の富岡ICを下りると、随所に交通規制が張りめぐらされていた。福島第一原発事故により、帰還困難区域（一部は解除）となった町である。地元の方に話を聞くと、7年前の人口の約1割しか戻ってきていないそうである。しかし「近くの旅館が再開をした」などといった復興への道筋を拓くような話も聞かせていただき、故郷への熱い思いがひしひしと感じられた。

同じころ、数年来苦楽をともにしてきた同僚が職場を離れ、野球のコーチを目指すべく、オーストラリアへと向かった。本来ならば野球の母国アメリカへと向かうはずであったが、現政権による移民排斥を進める動きが強く、なかなか就労ビザがおりない中で、泣く泣く渡豪することとなったのである。偶然にも平成最後の節目となったが、おおよその人々は煮え切らない気持ちでいるに違いない。

この「原発」と「移民」という二つの問題は未だ解決されておらず、とても「平成最後の……」などとは言っていられない事態なのである。このように平成の世は非常にめまぐるしく、あらゆる物事が起

きては、すぐに忘れ去られるようになった時代であるといえる。しかし、私にとって人生の3分の2を謳歌した時代に、国内外多くの場所に赴き、目の当たりにしてきたことがたくさんある。震災などの災害、それを乗り越えようとする社会の絆、多くの問題に立ち向かう群衆の姿と、達成したときのほとばしる歓喜の渦。そんな中、平成時代の31年目は始まった。緻密なエポックメイキングをおこなうと同時に、自分の立ち位置をきちんと確認し、揚々とした気持ちで次の新しい時代を迎えたい。

追：2003年にいのちを授かった娘が中学校3カ年の最後を締めくくろうとしている。その一方で、机上の問題集と格闘する毎日。「平成最後なんて言っているけど、受験生には関係ねえんだよ!」……納得である。

今年もよろしく願いいたします。

合 掌



年 回 表 (平成三十一年)									
百	五	三	三	二	二	十	十	七	三
回	十	十	十	十	十	回	回	回	回
忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌	忌
大	昭	昭	昭	平	平	平	平	平	平
正	和	和	和	成	成	成	成	成	成
九	四	五	六	五	九	十	十	十	十
年	十	十	十	年	年	年	年	年	年
	五	八	二						

真宗本廟報恩講に参加して

浄泉寺同朋の会監事 菱 沼 泰 美

2018年は、私達夫婦にとって生涯忘れられない1年になることだろうと思います。振り返れば3月、住職様より京都にある本山東本願寺で総代研修(2泊3日)と帰敬式を受けてくださいと言われました。家内と相談、会社仕事から直接離れたので行こうと決めました。

4月1日、本山研修センター(同朋会館)に入館。個人参加のメンバー、大阪府松原市の大谷さん、岐阜県瑞穂市の仙石さん、愛媛県小牧市の福井さん、宮崎県延岡市の有山さん、それに私達夫婦でした。大谷さん、有山さんは毎年の様に研修に参加しており次々と課題や行事を消化しアッという間の2日間、11月の報恩講に又会いましょうと約束して帰って住職様に報告に伺いました。その後6月頃有山さんより電話があり11月27~28日の本山報恩講に参加決定をしました。

11月25日仙台港よりフェリーで26日名古屋港に、マイカーで京都を目指し27日本山(同朋会館)で春のメンバーと再会しました。

特に今回の参加の中では沖縄教区(沖縄別院)の方々とも親しく座談させていただきました。また北米開教区(North America District 60ヶ寺：護寺会会員14,000人)からも5名ほどの門徒さんが通訳さんを交えながら報恩講に参加されていてチョット驚きました。

色々調べると世界各地に教区があり、ワールドワイドの世界が広がっている事を知り、親鸞聖人の偉大さに更に心引きつけられる思いでした。

28日10時より宗祖親鸞聖人報恩講(満日中)ご満座法要に参詣しました。広い

ご影堂には約5,000人の人々が全国から集まり、境内は様々な行事が行われ沢山の人が本山をめざしている感じがしました。

春は少し体調を崩してしまいましたが、どこに行っても満開の桜でしたが11月の秋の京都は、またまた素晴らしい紅葉をマイカーで観光し、久しぶりで充実した時を満喫して来ました。

気が付けば、この一年私達にとって考えられない新しい出会いを与えていただいた事に心から感謝しております。

平成30年帰敬式受式者研修会開催



既に帰敬式を受けられた方(本山又は浄泉寺にて帰敬式を受式された方)を対象に下記により研修会を実施しました。

お忙しい中ご参加いただきました皆様に心から厚くお礼申し上げます。

日時：9月12日(水) 午前10時より

場所：浄泉寺本堂

会費：2千円(昼食代含)

9時30分 受付

10時 開会・勤行

10時30分 講義

12時 … 昼食休憩 …

13時 講義・質疑

15時30分 恩徳讃斉唱 閉会

16時 懇談・懇親

18時 解散

講師：いわき市明賢寺住職 藤内和光師

講題：「帰依三宝」

不思議な秤

浄泉寺住職 赤羽根 證 信

晩秋の昼下り、いつも放し飼いしている鶏の一羽が狐にさらわれて行く姿を孫娘が見て「にわとりさん可愛そう」と泣きながら私のところに走ってきた。一瞬「憎いキツネメ!!きっと仇を討つ」と思った。しかしそのことを孫娘に、どう伝えようかと考えた。

古い仏教説話に「不思議な秤」がある。

ある日鳩が鷹に追われて、坊さんのところに助けを求めて来た。坊さんは鳩をふところに入れ鷹に話した。「弱いものを追っかけるとは可愛そうなことをしてはいけないよ」と諭した。しかし鷹は「私には巢に子供達がいてその鳩の肉をおなかをすかして待っている」と……。

坊さんは「それじゃその肉の重さをあたえよう」と自分の手を切り取って鳩と重さ比べをする。しかし両手両足でも足りず結局全身を秤に乗せて、やっとつり合ったのである。

いのちの重さはどう計ればいいのか、孫娘にはここまでにしよう。彼女はこれから様々なことに会う。そのときにこそ今回の経験が役立ってくれればと思う。

(合 掌)

親鸞教室講師清谷和男師命終さる

昭和60年12月「翌年1月から親鸞教室を開催して欲しい」と仙台組の要望があり組内初の開催が決定。その時の講師が、北上市通来寺住職の清谷和男師です。

師はこれまでには無かった手法で、カリキュラムの無い「その時の話題に沿った内容を親鸞の教えに照らして語る」という独創的な方法で講義を進められ、私達受講生はその講義に深く感銘を受けておりました。命終されたことを知らされた時、葬儀に出席したいことを赤羽根住職にお願いし、ご住職及び当時の受講生2名にて葬儀参列を決定しました。

当日は雨の中進められ、しめやかな葬儀となりました。清谷先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。(合 掌)

お知らせ

浄泉寺 2019年の行事予定

- 1月16日10時 修正会(しゅしょうえ)
- 2月 浄泉寺・成願寺同朋の会研修
- 3月31日～4月1日 本山音楽法要参詣
- 5月(日時未定) 春のつどい・帰敬式
- 6月(日時未定) 護寺会総会
- 8月13～16日18時～ 万灯篋会
- 9月(日時未定) 帰敬式受式者研修会

あ

と

が

き

平成最後の報恩講が11月23日開催された際、法話の講師に岩手県遠野市萬通寺住職和田演郎師に出講いただいた。お互い住職として東北別院(仙台)などで顔を合せているものの、電話での講師依頼は失礼と思い、過日(10月9日)「遠野市を訪れてあいさつを」と出かけた。

朝6時30分出発し10時着。話を終え昼食にと坊守さんも加え3人で「割烹和田」へ、出された昼食「うな重」は今までこれほど美味なるものはなく、翌10日、正信偈のつどい間話の中で紹介し、希望者を募ると多くの応募があり、10月24日、再度、しかも20人での「うな重を食する旅」となった。

その「割烹和田」の主人こそ萬通寺副住職である。

南無阿弥陀仏(住職)